

同友しずおか 6

2020
VOL.499



第二回 青山 達弘氏
(株)青山建材工業)



第一回 箕 威頼氏
(株)アサギリ)

YouTube動画は
こちらのQR
コードからご覧
いただけます!



～目次～

- ・静岡同友会公式YouTubeチャンネル「我が経営を語る! 静岡社長TV」 p1
 - ・雇用調整助成金セミナーをZOOMで開催 p2
 - ・各支部でのZOOMなどの活用事例・例会報告 p2～4
 - ・第17期経営指針を創る会 開講に向けて p5～6
 - ・追悼文 裏表紙
- など

● レコーディングしています



各支部でZOOMを 活用した例会を開催!

(写真は富士宮支部)



静岡県中小企業家同友会

静岡県中小企業家同友会 公式YouTubeチャンネル！ 「我が経営を語る！静岡社長TV」が開設

静岡県中小企業家同友会では5月15日からYouTubeチャンネルを開設しました。新型コロナウイルスの影響が各社に広がる中、私たち経営者が向き合う企業づくり、社員との関わり、地域への姿勢、そして労使見解（先月号掲載）に謳われる「経営者の責任」を実践する会員の実践報告や、その他様々な情報発信をおこなっていきます。

公式チャンネルでは、第1回は篠副代表理事、第2回は青山副代表理事による「我が経営を語る」を動画でお届けしています。会員の皆さんはもちろん、地域で奮闘する経営者にもぜひご紹介ください。【第3回は中村社労士（富士宮支部）による雇用調整助成金セミナー（5月29日公開）、第4回は松葉副代表理事の経営実践（6月5日公開予定）】

本号では、報告内容の一部抜粋してお届けします。動画を活用し、支部や専門委員会の活動にもお役立てください。「YouTube静岡社長TV」でお待ちしています！

第1回 篠副代表理事（株アサギリ）

富士宮市で産業廃棄物処分業を営んでいる（株アサギリ）。代表取締役の篠副代表理事は同友会歴17年目、富士宮支部長などを歴任し、現在静岡同友会の

副代表理事を務めています。産業廃棄物を扱う同社では、臭気による近隣住民とのトラブルや大雪による工場建屋の倒壊など、これまで度重なる危機に見舞われてきました。これらの危機を乗り越えることができたのは、企業



を変化させる経営者の覚悟があったからだと篠氏は語ります。

「明けない夜はない」

「ピンチはチャンスという言葉があるが、何もしなければピンチはピンチでしかない」。外部環境の変化は中小企業には当たり前にあることです。その変化に決意を持つて対応できた人だけが「あの時本当に大変だったけど、結果的にはピンチをチャンスに変えることができたね」と言えるようになるのだと語ります。これまで会社がなくならないといういくつものピンチを乗り越えてきた篠氏。その時に何もしなければ会社は無くなっていたのではと振り返ります。「こんな時こそ企業を継続する意義、雇用を守る意義、中小企業がその地に存在する意義、そしてそのためにはどうするかを必死に考えなければいけません。たと

え一人では解決できないことでも同友会の仲間と相談することで、社員とともに前に進む勇気が持てるのだと思います。繰り返しになりますが困難な時だからこそ、社員と共に大きな変革をするチャンスであると思います。社員や仲間と共に学び、共に育ち、皆さんと一緒に地域になくてはならない会社を私も目指していきます。」とのメッセージがありました。


静岡同友会 公式
YouTubeチャンネル
 こちらのQRコードからアクセス！

チャンネル登録
お願いします！

☆チャンネル登録して
 いただくと、新着動画
 の通知を受け取るこ
 とができます！

会員経営者の経営実践報告を
随時配信中！

第2回 青山達弘氏（株青山建材工業）

県副代表理事・静岡支部

コロナが我々に伝えてくれたメッセージ「自己免疫力」と「自尊」

新型コロナウイルスの影響で取引先の仕事がストップ、3週間の休業を決断した青山氏。自身も必死で情報収集を行い、社員に学習支援金を支給して、新型コロナウイルスについて積極的な情報収集を促しました。「分からないことは自分で調べ、自分で守ってほしい」という社員への想いからこの

ような取組みを行ったとのこと。経営理念に「われわれは、お互いに協力し、自分の頭で考え、行動し、成長します」と掲げているように、同社では、社員自身が自分の頭で考えることを大切にしています。コロナウイルス



感染症で試されているのは、「自己免疫力」と「自尊」だと語ります。

「未知との遭遇」

これは青山氏が合同入社式でいつも新入社員に伝えているメッセージです。今回の新型コロナウイルスによる環境変化についても、わからないもののとの出会いを楽しもうという気持ちでいると話します。

ジョン・F・ケネディの名言に「Ask not what your country can do for you; ask what you can do for your country」（国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい）とあるように、我々が一企業家として、自社、社員、家族、地域（country）に対して何ができるかを考えることが大切ではないかと青山氏は語ります。そして、この先はどうなるか分からないからこそ、真っ白なキャンバスにワクワクする未来を描けるのではないかと伝えました。

雇用調整助成金 申請のポイント セミナーをZOOMで開催！

5月29日に、就業規則の整備・充実を推進するための検討会が主催となり、支部の垣根を越え全会員向けに「雇用調整助成金 申請のポイント」セミナーをZOOMで開催しました。中村仁氏（社会保険労務士法人シャイン・富士宮支部）を講師に迎え、当日は25名ほどの参加がありました。

冒頭、就業規則の整備検討会 担当理事の鈴木雅夫氏（香港静雅有限公司・県副代表理事）より「新型コロナウイルスの影響で状況が変化しており、各種申請を行う中で就業規則作成の重要性が高まっています。企業規模の大小に関わらず労働環境をしっかりと整備していきたい」とのあいさつがありました。中村氏のセミナーでは「まずは出す（申請する）ことが大切。労働法上の問題も、この申請を起点に直していけばよい」と最初に伝えられました。雇用調整助成金を申請するにあたって気を付けるべきポイントをいくつか解説し、申請準備にあたっては最新の「雇用調整助成金ガイドブック」（厚生労働省HP）をチェックするとよいとアドバイスしました。最後に「最新の情報をチェックすること、そしてまずはあきらめず出すことが大切です。早めに準備をはじめて、スタートダッシュが遅れないようにしてほしい」と参加者に伝えました。

セミナーの様子の動画は
こちらからご覧いただけます！



前編



後編

することからはじめたい」などの感想がありました。最後に鈴木副代表理事より「これを機に社員と話し合っ、労使協定や就業規則など社内での決めるべきことを定めることで、コロナ後の企業発展につながるのではないかと、のあいさつで幕を閉じました。

当日のセミナーの様子は、会員の皆さまにむけてYouTubeに「我が経営を語る！静岡社長TV特別編」として公開中です。左のQRコードからアクセスできますので、詳しい内容はそちらをご覧ください。

また、助成金申請にあたってご不明な点や質問がありましたら、ぜひ支部内の会員社労士の方にご相談ください！事務局にご連絡いただければお近くの会員社労士の方をご紹介します。

各支部でオンラインでの例会や グループ活動が行われています！

新型コロナウイルス感染症の影響で直接集まっていた行事が行えない中、各支部では続々とオンラインツールの活用が進んでいます！ZOOMで例会や役員会を開催したり、LINEやフェイスブックで情報交換を行ったりと、こんな状況だからこそ「一社もつぶさない」同友会の連帯の精神でお互いに声を掛け合い、積極的に新しい取り組みを行っています。各支部の4・5月の活動についてご紹介いたします。ぜひ他支部の取り組みをご参考ください。

伊東支部

実際に会って活動が出来ない中、伊東支部では情報伝達のツールとしてLINEが活躍しました。支部のグループLINEでLINEで告知を行い、LINEビデオ通話を使って4月には2回情報交換会を開催。お互いの近況報告を行いました。5月にはZOOMを使って例会を開催。6名が参加し、①各社の現状と取り組みについて、②今だから挑戦できること、これから取り組みたいこと③今後の支部活動についてをテーマに意見交換を行いました。テレワークの実施でお子さんのいる家庭も働きやすい環境になった、週休2日制を実現したなど「働き方改革が進んだ」との前向きな意見も多く挙がりました。売上が減少し厳しい状況にありながらも、これを機に新たな事業展開を模索している企業が多くあり、最

後は「皆で頑張ろう！」との声かけで明るく幕を閉じました。

御殿場支部

御殿場支部は県境に近く他県からの流入が多い地区です。以前は他県の利用者で賑わいがありましたが、今は地域の支えで経済活動が成立し取組みが望まれています。会員各社も様々な工夫をし、テレワークやWEBでの会議、テイクアウト、など業種に応じた対応をしています。さらに支部活動も自粛が求められ定期的に会員同士が顔を合わすことも大幅に減りました。新年度を迎えるにあたっては、慣れないZOOMで役員会を行い、総会が通常開催できませんので、WEBサイトのYouTubeで支部のチャネルを設け、事業計画の発表を配信することにしました。今後の活動は「マスク着用」「アルコール消毒」「3密の回避」の感染予防策を推奨して行きます。



御殿場支部
facebook

これまでとは勝手が違う部分もありますが、併用開催が可能であることを感じました。現在の環境で何ができるか、何をすべきか考えることは経営でも同じです。大変な状況であるからこそ環境変化に対応するために、不慣れであっても試みることに、不慣れで認識しました。6月はZOOM、7月は会場とZOOMを併用した例会を企画しています。同友会の仲間と密に連絡を取り合い、一人で抱え込むことなくこの難局を乗り越えていきます。

大戸利之氏（南大戸化成・静岡支部）



5月役員会（ZOOMと事務局併用）

志太支部

新型コロナウイルス感染症の影響で、事業の運営に深刻な影響をうけられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。志太支部では、5月22日現在もZOOMを使って役員会が開催されています。最初にZOOM役員会を開催したのは4月8日。10名が参加しましたが、議事運営よりも、まず近況報告に始まり、ZOOM

OMの使い方、バーチャル背景の設定方法などで盛り上がりました。2回目となる役員会は13名が出席しました。すでにZOOMに慣れたメンバーも多く、5月・6月の合同例会をZOOMで開催すること。その前に、委員会を通じてZOOMの使い方をメンバーに周知することなどが決まりました。有志で会員企業に訪問してセッティングのお手伝いをしていきます。そして終盤、ZOOMの機能、ブレイクアウトルームを使ったセッションも体験。バズセッションに最適な機能だということがわかりました。6月の支部活動は、ZOOMの練習会、集合しての役員会、ZOOM例会と、ネットとリアルを融合しながら活動していくこととなります。

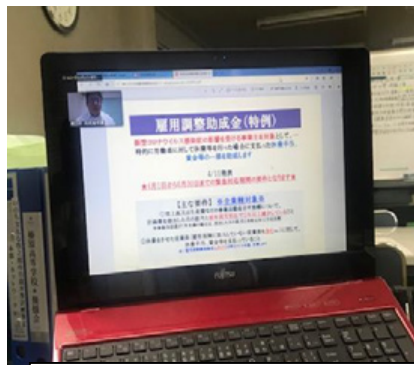
村松繁氏（アイマーク㈱・志太支部）

榛南支部

ほぼ全職種でコロナウイルスによる影響が出てきていると言う声を聞きます。そんな中で「同友会どころではない」と思われているメンバーもいるでしょうが、「いいえ、こんな時だからこそ同友会なんだ」との思いを役員全員で共有し活動していきたいと思っています。正副支部長会議・役員会は3月、4月とLINEビデオ通話会議で、5月はZOOM会議にて行いました。正副は全員、役員会は20名程度の参加者でした。5月8日にはメンバーの社会保険労務士2名による雇用調整助成金・持続化給付金についての勉強会をZOOMにて行い、参加者は30名程度でした。ZOOMで例会や勉強会ができることを確信しました。5月は4委員会がZOOMでの委員会を予定しています。6月の例会の担当委員会ではZOOMでの例会を開催

できるか検討中です。なかなか顔を合わせる事ができませんが、ZOOMやLINEを利用してメンバー同士の密なコミュニケーションを取るよう各委員長へお願いしています。ZOOMで会議や例会を実施する場合にもルールや進行方法を細やかに決めて参加者に徹底してもらう必要がありますが、十分会議やコミュニケーションを取るためのツールとして有効だと実感しています。この機会に新しい会議の在り方も再確認でき、唯一良い影響だったかと思っています。

中野博美氏（㈱ナック・榛南支部）



会員社労士によるZOOM勉強会

中遠支部

総会は書面決議とし、役員会は4月と5月、例会は5月にZOOMで開催しました。当支部はリアルでも参加が少なかったため、特に例会は他支部への声掛けを行い、また昼間開始にするなどZOOM開催の利点を生かして参加者増加を図りましたが、蓋を開ければいつも通り数名の参加という結果でした。役員会についてはZOOM開催でもほぼ普段と同様の議論ができた

と思います。中遠地区は適切な会場が少ないため、予約のとれない月など今後も利用可能と考えます。例会については「自社の取り組み（工夫や制度活用など）」をメインに、資金繰りなど現在の関心事や必要な情報について話し合いました。報告形式でなく、少人数だったため、通常の例会での活用が可能な検証でございましたが、意見交換は関連に行えたと思います。個人的には職場のデスクからの参加で職員に聞こえてしまうため、突っ込んだ自分の意見が言いにくかったのが反省点です。

鈴木弘之氏（税理士法人 あい会計・中遠支部）

浜松支部

浜松支部では昨年度10名の方が入会したものの通常活動ができなくなり、どのように新しいメンバーへのフォローをしていくか戸惑いもありましたが、ZOOMの活用や支部役員の声かけをそれぞれが行い、一人にしない活動を進めてきました。ZOOMで開催した5月例会では、①各社の取り組み（働き方の工夫や新たなチャレンジ）、②助成金等の活用について、③半年後、1年後を見据えて、の3つのテーマで意見交換を行いました。すでに受注量の激減による交代勤務を余儀なくされている会員もおり、業種によって差はあるものの企業が大きな変化を求められていることが共有されました。また物流がストップしたことでも大きな影響が出ていることを踏まえ、日常的にいかに地域内で経済を回していくかが今後危機に立ち向かう上では最も重要なことではないかとまとめられました。

第17期経営指針を創る会開講に向けて 『経営指針の成文化と実践で大変革の時代に挑む』

新型コロナウイルス感染症により、経済活動が停滞し、日本各地の中小企業にも大きな影響を及ぼしています。収束に向かう中でも今後の社会構造の変革はじまり、企業にも大きな変化が求められています。

同友会では、同友しずおか5月号で紹介した「中小企業における労使関係の見解」（以下、労使見解）と併せて、「経営理念」「10年ビジョン」「経営方針」「経営計画」の4つの要素を含んだ「経営指針の成文化運動」を長期にわたり進めてきました。大変革の時代だからこそ改めて自社を見つめ直し、地域になくてはならない会社を目指していきましょう。同友会では指針成文化のためのツールが多くあります。ぜひそれらも活用いただき、大変革の時代を共に乗り越えていきましょう。

経営指針の4要素

「経営理念」とは、企業の目的・目指す姿であり、経営にあたっての価値判断の基準となる根本的な考え方を明示するものです。

「10年ビジョン」とは、経営理念を追求していく過程における自社の理想的な未来像（ありたい姿）を

具体的に書き表したものです。

「経営方針」とは、この10年ビジョンの実現を目指して中期（3～5年）の目標を示し、それに到達するための道筋を示したものです。

「経営計画」とは、設定された方針に基づき、それを達成するための手段、方策、手順（いつ、誰が、どのように）を具体的に策定するものです。

『経営指針成文化と実践の手引き』（『経営指針成文化と実践の手引き』より抜粋 頒価2,000円）購入希望の方は同友会事務局までご連絡ください！



なぜ成文化が必要なのか

経営の指針がなければ、経営が進まないのは明らかです。経営の考えや方針・計画は、経営者ならば何か

しら持っているのが当たり前ですが、成文化し誰もが共有できるようにすることが重要です。そのためには、全社員に方向を徹底する必要があります。経営指針を文書として作成することによって、全社員に会社の進む方向性を明確に示すことができます。それが社員との信頼関係を築く体制づくりと経営方針を首尾一貫させるために必要なことです。

経営指針成文化は経営者の責任のひとつ

経営指針を作成することを同友会ではよく、航海にたとえられます。航海の目的を全乗組員に明らかにし、

航路と航海の日程や航海図や羅針盤を整備して、トップである船長以下全乗組員全員が力を合わせて目的地に進むということです。

船長は嵐や不測の事態にも備えて、常にいざという時の準備をととのえておかねばなりません。理念・方針が確立していないと、計画の変更すらうまくいきません。嵐の中

■参考資料 同友会で提唱している経営指針の4要素
以下の4点を総称して「経営指針」と呼称しています。



で行く先を見失えば命の危険にさらされますが、これが経営であれば、経営の危機的状況に陥ることに繋がります。経営指針の成文化は、少なくともいざという事態をまねかないような積極的な経営姿勢を生み出す重要な要素です。また、危機的状況に直面した際に、社員と共に乗り越えるための羅針盤となります。経営指針を作成することは経営者の責任のひとつといえます。

◆同友会では指針成文化のためのツールが多くあります。お求めの方は同友会事務局までお問い合わせください！



第17期経営指針を創る会開講！

静岡同友会では、2004年より経営指針を創る会（以下、創る会）を開講し、多くの会員経営者が参加してきました。

今年度開講する第17期は新型コロナウイルス感染症の影響により例年より少し遅れての開講となります。オンライン会議の活用なども検討しながら経営指針の成文化を目指す経営者の皆さんのご参加をお待ちしています！

県経営労働委員長の増田崇氏と今期創る会会長の山本健二氏より、経営指針成文化の意義や自社での実践、創る会での学びについて紹介いただきます。

県経営労働委員長 増田崇氏

（南リアス・榛南支部）



私たちが同友会活動を行う目的は、3つあります。そのうちのひとつである、「自社を

良くする」ための一つの手段が経営指針書です。ですので、経営指針書の成文化に意義があるのかというと、それ自体に直接的な意義はあまり無

いと感じます。創る会を通して、成文化しても、そこで終わってしまつては何も会社は変わりません。経営指針書を通して、社員と話し合い、考えを共有することによって、皆のベクトルが揃い、初めて会社経営は前に進んでいくのではないのでしょうか。

私自身、創る会で侃々諤々の議論を交わし、「これでいこう！」と肚に落ちた理念でも、社員や取引先、金融機関の担当者に話すときは、何とも不安な気持ちでいっぱいでした。

創る会のように、自分の考えに対して賛否あれ、意見を言われるということは、何も言われないことよりも救われます。最も不安になるのは、無関心や、社交辞令のような「素晴らしいですね」という言葉です。自分自身の中に常にある「これでいいのか？」という疑問を抱えながら、1年経営をし、その結果を踏まえ、改めて経営指針書を改定していく。この繰り返しですが、私の経験則では、遠回りかもしれませんが、確実に会社を良くしていくことに繋がっていききました。やはり経営指針書以外には、社員や取引先、そして関係各社と、会社経営や仕事に対する考えを共有できる手段が今の私にはありません。そんな中、つい先日、弊社の経営理念を変更しました。事前に社員、一人ひとりに理念と仕事に対する考えをたたき台として書面にして

渡し、後日、皆から意見を聴き、最終的な変更としました。その時、社員から「この考えで私はいいと思えます！」と、清々しく言ってもらった時、私の中でモヤモヤしていたものが一つ消え、それと同時に、まだまだちっぽけではありますが、小さな自信の芽が出てきたような気がしました。

経営指針を創る会会長 山本健二氏
（株日本スエーデン・静岡支部）



現状、コロナウイルスの影響で国内外の経済活動もままならない状況の中、同友会においても、活動が自粛され、今後、まだまだ予断を許さない状況にあります。

それでも、私たち経営者は、会社を存続させる上で、歩みや学びを止めるわけにはいきません。このような状況の中だからこそ経営者として何を考え、何ができるか、今、その本質が更に、問われる時代になろうとしています。

さて、県経営労働委員会「経営指針を創る会」は、本年度このような環境下の中においても、学びの歩みを止めず、開催する運びとなりました。

た。ZOOM会議を含め、様々な対応を駆使して、参加する受講者及びスタッフにとって、有益なものを得られる場づくりが心掛けていきます。この「経営指針を創る会」は、経営指針書を完成させるためのプロセスを学び、自社について考え、それを完成させる場であります。しかしながら、その過程において、同じ受講する仲間やスタッフとの会話から、気づきを得る場でもあり、その気づきは、単に教えてもらうものでなく、心の底から現れるものであります。経営者にとって本当に重要なもの、見せかけの言葉でなく、本当に社員にも響く言葉、これを生み出すことのできる場であると考えます。このような環境下だからこそ、この学びの場から得られるものがあると思います。ご参加を心よりお待ちしております。

◆第17期経営指針を創る会の詳細は同封の案内をご覧ください！

なお、ご不明な点は同友会事務局へお問い合わせください！

Tel : 054-253-6130

☆皆様のご参加お待ちしております！☆

6月・7月

DOYU CALENDAR

6月16日(火)～7月15日(水)

6月 16日(火)	ビジネスマナー&コミュニケーション研修 (10:00 ZOOM) 島田掛川信用金庫による中小企業・小規模企業 の支援制度・融資制度のオンライン説明座談会 (榛南・志太・中遠支部+県理事 参加限定) (13:00 ZOOM)
17日(水)	伊東例会 (19:00 伊東商工会議所) 沼津例会 (19:00 ZOOM)
18日(木)	榛南例会 (時間・場所 未定) 中遠例会 (時間・場所 未定) 浜松例会 (時間・場所 未定)
22日(月)	三島例会 (19:00 ZOOM)
23日(火)	県例会企画委員会 (18:00 ZOOM)

24日(水)	県理事会 (17:00 ZOOM)
25日(木)	県障がい者問題委員会 (18:00 ZOOM)
26日(金)	会員経営者が語る 「イントロセミナー～同友会と私」 (18:00 同友会事務局 (ZOOM併用))
7月 8日(水)	御殿場例会 (19:00 時の栖 御殿場高原ホテル)
14日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート (ZOOM併用))
15日(水)	志太例会 (時間・場所 未定) 沼津例会 (時間・場所 未定)

《あなたのスケジュールノートに必要事項をご記入ください》



同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

- 1 よい会社をつくろう**
同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
- 2 よい経営者になろう**
同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
- 3 よい経営環境をつくろう**
同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL:054-253-6130



故 前島 利治氏
富士宮清掃(有)
富士宮支部
1946年11月18日生
(満75歳)
1997年入会

故 前島利治さんのご逝去を悼んで

二十数年前に入会以来、県理事、支部役員として活躍してくれた前島さん。多くを語らず、しかし理事会・役員会の一角で、睨みを利かせる、大きな体と鋭い目つきを思い出す人も多いと思います。共通の友人に「会社経営の事ならノブさんの居る同友会がいいよ」と言われて、でも私に黙って入会、そんなシャイな人でした。全国大会の後は、しっかり勉強したんだからと理屈をつけて、そのまま旅行(ゴルフ付き)へ、定例メンバーは黒松を含めて3人、旅行記だけで一万字でも語り尽くせません。ゴルフ・麻雀で一歩及ばぬ私に「大丈夫だよノブさん、しゃべりなら10歩先に行っているぜ」

コロナ禍の今、「骨は拾ってやるよ」の約束も果たせず。棺に納めてもらった折り紙に、「トシさん、もっと旅行に行きたかった、ゴルフしたかった、麻雀やりたかった。そのうちソッチへ行くから、メンバー集めて待っていて」と。支部役員会は、今でもトシさんの会社で行っているし、役員会の反省会も同友会を勧めてくれた、炉端焼きの親父のところで飲んでいるし、後継者のカッチャンは全国区で活躍しているし、富士宮支部は永遠に不滅だよ。

河原崎 信幸氏(シンコーラミ工業(株)・富士宮支部)

新型コロナウイルス感染症関連支援策等 リンク先一覧

新型コロナウイルス感染症の影響で資金繰り等でお困りの事業者の方へ

東海財務局HP内にて、県内での国、公的機関、金融機関及び地方公共団体の各支援策に係るリンク先一覧をご覧ください。

(出典：東海財務局HP http://tokai.mof.go.jp/sizuoka/zimusyosyo_link_00001.htm)

